

Eureka IX

六年制通信 No.10 令和3年6月18日(金)号

知的正直

ずいぶん昔に読んだ本の中に、勉強をしていく上でどのような心構えが大切かを述べたものがありました。このような種類の本は今でも書店に溢れていると思います。いわゆる啓発書と呼ばれるものですが、若いうちは誰もが手に取ってみるでしょう。啓発とは「教え、導くこと」という意味で、出典は論語の述而第七にある「憤(ふん)せずんば啓せず、悱(ひ)せずんば発せず」です。憤とはこれではならないと気張ること、悱とはもどかしい思いをすることです。つまり(まず自分で考え、理解に苦しんで)もどかしさが表情にまで表れるほどになれば、教えてはやらない、という意味です(山田勝美『ポケット論語』角川文庫より)。これを英語では **enlighten** と言います。**light** は光、**en-**は動詞を作る接頭辞、要するに「(人の心に) 知の光を灯すこと」です。私たちは知を啓く(ひらく)という表現を知っていますが、英語の方が直接的で分かりやすいかもしれませんね。話を戻すと、勉学を続けていく上でもっとも大切な資質は何なのでしょう。私の読んだ本には、それは「知的正直」であると、書いてあった記憶があります。これは英語の **intellectual honesty** の訳で、要するに「わからないことをわかったふりしないこと」です。自分に嘘をつかないことと言ってもいいかもしれません。

人間には多かれ少なかれ見栄があって、できない自分をなかなか曝け出せないものです。できることなら自分自身をも騙してしまいたいと思うこともあるでしょう。試験を返すと、点数のところを折り曲げてしまう生徒をとときどき目にしますが、あれは他人に見られたくないのと同時に、現実から目を背けてしまいたい衝動もあるように思います。しかしそれはやはり自分の実力から目を背けているのであり、自分を欺く行為であり、知的正直に反すると思います。その時点での学力を測るのが定期試験です。一週間前から準備期間が設定され、君たちは試験勉強をしたはずです。本当に準備に力を注いだかどうか、それは自分にしか分からないことです。定期試験には範囲があり、準備の期間があり、君たちには勉強に取り組める環境があります。世界に目を向ければ、勉強のできる環境にない人たちもたくさんいるというのに。さて、それで真剣に取り組めたかどうかを考えて下さい。できなかった、わからなかった、今自分がそういう段階にいるのなら、そういう自分を直視してそこからスタートしなければいけません。わかったふりして自分を欺いてはいけません。若いときは自分に対する周りの評価が気になるものです。君だけでなく誰にもでもそういう時期はあったのです。周りの目に自分がどう映っているかを気にする時期だから仕方ないですね。同時にまた、中学高校のころは自分に自信のない時期でもあると思います。これは私の推測と体験

で言うのですが、今の君たちは自分の容姿、声、学力、体力、才能、それら全てに自信がなく、自分が何に向いているのか、本当にしたいことは何なのか、それらもまたはつきりとせず、ただぼんやりとあらゆることに諦めに似た気持ちを持っているのではないのでしょうか。友人との距離間を気にして、毎日のように友人であることを確認しないと気がすまなかったり、そんな友人の学力が羨ましかったりしないのでしょうか。個性を大事に、と言われても自分の個性がどこにあるのか分からない。周りを見れば友人たちは個性を持っているが自分にはそれがないように感じる。そうではないのでしょうか。これは小林秀雄が書いていたと思いますが、個性というのは、例えば司馬遼太郎の『坂の上の雲』を読んだとき、どの主人公に惹かれるか、つまり秋山真之に惹かれるか、秋山好古に関心を持つか、正岡子規に感動するか、人によって違うものです。そういう違いこそがその人の個性なのだと小林は言います。その通りですね。勉強が進んでいくと、自分の中に「こういう人物になりたい」と思えるような、自分だけのヒーローが生まれてきます。その人物は人によって異なります。自分の成長過程によっても変わってきます。心の中に誰を持つか、それがあなたの個性に他ならないのです。だから狭い世界にいてはヒーローの生まれようありません。個性も生まれません。やはり、勉強をしていくことで時間と空間を越えて広い世界を知ることができます。それが結局あなたの個性を伸ばしていく道なのです。広い視野を持つために勉強しているのだと、そう信じていいと思います。今の目の前の勉強はちゃんと先へ繋がっていると信じていいと思います。周りから見た自分の評価はどうか、自分の個性は何か、あなたは心にそれらの悩ましい問題を持ちつつ勉強をしていかなくてははいけません。そのために自分自身に対して正直になる必要があるのです。知的正直はあなたの生活をゼロベースから点検してくれます。どこまで戻って勉強しなくてはいけないかも教えてくれます。学ぶ姿勢を作ってくれます。そして気になる周りの目をあなたから奪ってくれます。自分の実力に誠実であるという気持ちが勉強の基礎なのですね。

今週のおすすめ

・ 柚月裕子 『月下のサクラ』 （徳間書店）

以前出た『朽ちないサクラ』の続編、主人公は森口泉。柚月さんの本は読むようにしています。「このミス大賞」の『臨床真理』以来のファンなので。役所広司主演で映画になった『孤狼の血』や上川隆也主演のドラマ『検事の本懐』や千葉雄大の『盤上の向日葵』、それらはすべて面白く読みました。また、『盤上の向日葵』を読むと将棋の世界をよく取材していることがわかります。今現在、藤井聡太二冠の棋聖防衛戦が始まっていますが、柚月さんは観戦記を書いているそうです。それも読んでみたいなあ。今回の作品は私としては少し残念に思いました。モチーフは良い、登場人物の個性も立っています、しかし犯人に無理があります。動機にも。柚月さんにしてはちょっと荒かったな。ちなみにシリーズ化されていない作品で私のお気に入り『あしたの君へ』です。文春文庫にありますよ。読んでごらん。

BGMは Donna Summer の *Hot Stuff* でした…。